

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
25 伊勢市	対談項目1 高向小俣線の県道事業としての整備		<ul style="list-style-type: none"> ・宮川橋の老朽化が著しく、架け替えが急務となっています。 ・宮川橋は県道と県道を結ぶ橋になることから、高向小俣線を県道として採択いただき、宮川橋の架け替えにご尽力ください。 ・市としても、用地交渉や設計など協力をしていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県道として整備するには、複数の市町を結ぶ広域的なネットワークがあるかがポイントとなります。 ・市内の道路整備については、現在整備中の県道館町通線など5路線(6ヵ所)の早期完成を目指しているところです。 ・高向小俣線と並走する県道が既にあるので、県道事業として位置付けることは難しいが、橋の老朽化や、大型店舗出店による渋滞の発生など、課題の整理に向けて、市と協議を開始していきたいと思っています。
伊勢市	対談項目2 三重県地震被害想定に対する三重県の対応方針のとりまとめ	三重県として新たな被害想定に対する備蓄の考え方や対応の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・市としては、危機管理部を中心に、学校の外付け階段の設置や市内8か所に避難タワーの設置等ハード面での整備や、中学校区単位での避難訓練の実施等ソフト面での対応をしているところで、訓練を重ねる毎に様々な課題が見えてきています。 ・特に市内の高齢化率は29%で、年々1%ずつ上昇しており、高齢者がせつかく避難しても避難所で救急車を呼ばないといけない等、見えてこなかった課題も見えてきています。 ・平成16年度に出された地震被害想定における避難人数は、市内8,000人であったのに対し、平成25年度には123,000人と15倍に増え、避難に対する準備が必要となっています。 ・このような中、備蓄物資については、ぜひとも県のご支援をいただきたいと思っています。 ・毎年800~900万人の観光客があることも考えると、被害想定はさらに増えると見込まれます。 ・被害に対する備えの取り扱いが、現在、南勢地域でも市町でバラつきがあります。 ・県でガイドラインを策定していただくことで、隣接近隣自治体と協力し合えることができるのではないかと考えています。 ・被害想定、備蓄に関する県の考え方も、市町と一緒に検討して早急に打ち出していきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・備蓄物資の保管場所については、宮川左岸の公共施設で検討しているところです。 ・食料・生活必需品の備蓄については、賞味期限などのため「更新」しなければならず、膨大な費用がかかることが大きな課題です。 ・自治会等では、すでに発電機・投光機・担架・トイレ等を整備したところもあり、ハード面で整備済みの時には食料品の更新等に補助していただく等の柔軟なご配慮をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年実施している「防災に関する県民意識調査」において、今年は「東日本大震災から防災意識が薄れてしまった」と回答する方が6割になり、年々増加している状況です。 ・同じ調査で、飲料水の備蓄率は昨年は31.6%であったのに対し、今年は30.6%と下がってしまいました。 ・皆さんに防災に関する意識を持ち続けていただく、具体的なアクションをとっていただくことの難しさを感じており、引き続き、市町と連携しながらしっかりと啓発をしていきたいと思っています。 ・備蓄について、自治会、個人、市町、県がそれぞれどんな備蓄をするのか、ガイドラインが必要だと思っています。 ・今、担当部で議論しており、今年度中に「災害時の緊急物資等の備蓄に関する指針」を策定し、市町と共有する予定です。 ・基本的な考え方としては、市町が食料・生活必需品を備蓄し、県では、緊急性が高く住民ニーズの高い資機材(発電機・投光機・担架・トイレ・防水シート等)を備蓄し、かつ、これらの物資を被災地へ確実に届ける仕組みとして三重県トラック協会との協定締結に取り組むこととしています。 ・備蓄については、特に保管場所が重要になってきますので、市町と協議しながら検討していきたいと思っています。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情に合わせた備蓄になるよう、また、備蓄の更新等の課題についても市町のみなさんと協議しながら検討していきたいと思っています。
伊勢市	対談項目3 医療体制の充実	新病院がめざす医療機能を反映した地域医療ビジョンの策定	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療ビジョンの策定については、地域の実情に合わせて検討いただきありがとうございます。 ・全国的に地方病院の病床数の削減について大きなテーマとなっており、今後は在宅医療・在宅介護の方針が出されてはいますが、地方の実情では、在宅だけでは限界があり、在宅と施設のベストミックスを考えていく必要があると考えています。 ・市立伊勢総合病院についても、平成24年までは420床、現在は322床、新病院は300床と病床数を削減してきています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想については、病床数の削減ありきではなく、現在県内を8つの地域に分けて調整会議を設置し、地域の実情に応じて検討を進めています。 ・これからの人口構成や地域の医療資源、医療需要を考えて議論していきますので、引き続きご協力をお願いします。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
伊勢市	対談項目3 医療体制の充実	新病院建設に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・新病院の建設にあたっては、交付税措置の対象となる建築単価は、30万円/㎡から36万円/㎡に上がったところですが、実際には42万円/㎡かかっていることもあり、実勢価格に応じた単価に引き上げていただくよう国への働きかけをお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院建設にかかる交付税措置の対象となる建築単価は、30万円/㎡から36万円/㎡に引き上げられたところです。 ・国立病院機構の「病院建築標準仕様指針」の建築単価が依然として25～30万円/㎡であることから、さらなる増額は難しいとは思いますが、国の状況を見ながら要望していきたいと思っています。 ・一方で、総務省が出している「新公立病院改革プラン」を策定すれば交付税措置がされるため、策定に向けた検討をお願いしたいと思っています。
伊勢市	対談項目3 医療体制の充実	医師・看護師確保	<ul style="list-style-type: none"> ・医師・看護師の確保について、三重県地域医療支援センターの取組に感謝しております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師確保について、中長期的な取組として「医師修学資金貸与制度」により、今年10月末時点で536名に利用してもらっており、今後改善していくものと考えています。 ・一方で、医師の地域偏在、診療科目の偏在については、平成29年度より新たな専門医制度が導入されることから、今年日本専門医療機構に提言を行ってきました。 ・看護師確保については、県立看護大学の地域推薦枠が拡大できるよう努力していきたいと思っています。 ・「女性が働きやすい医療機関認証制度」を創設したので、女性が働きやすい医療機関を認証するとともにPRしていきたいと思っています。
伊勢市	対談項目3 医療体制の充実	医療機関に対する消費税制度の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関に対する消費税制度については、市立伊勢総合病院において年間1億5500万円程度の損失となっており、いち早く改善をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関に対する消費税制度については、全国的な問題となっており、全国知事会でも厚生労働省に要望しており、また日本医師会でも検討会が設置されていることから、引き続き国に対し改善に向けた働きかけをしていきたいと思っています。
伊勢市	対談項目4 障がい者施策	重度障がいのある人が利用できるサービスの体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・重度障がい者の通所先が強く求められており、市内で生まれたのに、通所先がないために市外で暮らさないといけない状況があります。 ・民間団体の通所施設整備にかかる補助を国・県にお願いしたところ、今までなら国からは1億円の補助金が出ていたところ、今年は1,500万円しか補助されませんでした。 ・障がい者の施策については、まだまだ不足しているところもあり、ハード整備について国へしっかりと働きかけていただくようご支援をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢志摩障害福祉圏域においては生活介護や短期入所施設が不足している状況であるため、施設の整備は急務であります。 ・来年度予算については、今年度のような補助金の減額がないよう、国にしっかりと働きかけをしていきます。

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
伊勢市	対談項目4 障がい者施策	<ul style="list-style-type: none"> ・「三重県障がい者雇用推進企業ネットワーク」で、現在172社が登録されています。 ・社会的事業所について、県の皆様のご指導をいただきながら進めていきたいと思っているので、財政的支援をよろしくお願ひします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市長には市内の事業所を積極的に訪問していただき、感謝しています。 ・現在、三重県には3個所の社会的事業所があります。 ・伊勢市さんもこの社会的事業所の開設に手を挙げていただいているので、初期投資や運営費の補助について議論していきたいと思っています。 ・障がい者就労施設について、優先的に県の仕事を発注していますが、社会的事業所にも優先的に発注できるよう検討しています。 ・また共同受注窓口の対象施設にも社会的事業所を入れるよう議論をしています。
伊勢市	対談項目4 障がい者施策		<ul style="list-style-type: none"> ・県の障害者実雇用率については、今年、20位まで上がりました。特に従業員数100人未満の雇用率が2.16%（全国が1.49%）となっており、全国的に高い水準となっておりますが、まだまだ道半ばであると思っています。 ・障がい者の皆さんが住み慣れた土地で、働きたい仕事に就けるよう、今後も努力していきたいと思っています。
伊勢市	対談項目4 障がい者施策	<ul style="list-style-type: none"> ・サミットや菓子博、国体など、今後は宇治山田駅よりも五十鈴川駅が拠点となってきますので、バリアフリー化を進めていかなければいけないと感じています。 ・対象の駅はバリアフリー法では、1日の利用者数が3,000人と定められていますが、地方では3,000人未満の駅が多いため、これらについてもバリアフリー化に係る国の支援をお願いしたいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度には、バリアフリー観光ガイド「みえバリ」を作成しました。 ・五十鈴川駅のバリアフリー化については、個別協議では難航することが多いのですが、近鉄伊勢若松駅では、一日の乗降者数は3,000人未満だが、障がい者の方の利用が多く、また乗り換える方が多い等、利用実態に応じて補助されたこともあるので、国に相談をしていきたいと思っていますので、伊勢市さんのご協力もよろしくお願ひします。
伊勢市	対談項目4 障がい者施策	<ul style="list-style-type: none"> ・特に五十鈴川駅は市立伊勢総合病院からの最寄りの駅であることから、バリアフリー化の支援について、国への働きかけをよろしくお願ひします。 	
伊勢市	対談項目5 民生委員児童委員活動への支援のあり方となり手不足の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年12月に民生委員の一斉改選が控えていますが、なり手不足が課題となっています。 ・民生委員のあり方、サポートする仕組みについて国で議論する土壌を作ることが大事だと思っていますので、知事会でも取り上げていただきますようお願ひします。 ・民生委員の活動のメインは市・町であるのに対し、指揮監督は県ですので、ここにギャップがあることも課題であると思っています。 ・来年12月の改選に欠員が出ないよう、率先した議論をお願ひします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先日、三重県民生委員児童委員協議会の役員の方々と意見交換したところ、来年の一斉改選に向けて危機感を持っており、活動費についてもよく議論してほしいとの意見がありましたので、国に働きかけていきたいと思っています。 ・民生委員の役割や活動内容をもっと知っていただけるよう、今年5、6月に「県政だより」に掲載し、ラジオでも周知をさせていただきました。 ・来年の一斉改選に向けて、更なる周知やPRを行っていきますので、市町の皆様のご協力をお願ひします。

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
伊勢市	(追加項目) 子ども・子育て支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・今年2月、都道府県では全国で初めて、三重県は特別養子縁組に向けた監護期間において育児休業に相当する制度を導入しました。 ・市内には児童養護施設が2か所あり、特に今年は国を挙げて子どもの貧困対策に取り組んでいることもあり、サポートが大事であると思っています。 ・施設に入所する要因としては、育児放棄、虐待、障害がありますが、18歳までに自立しなければなりません。 ・大学の進学率は、一般家庭は約60%、児童養護施設利用者は8%以下となっており、厳しい状況にあります。 ・児童養護施設入所の未然防止のため、児童相談所の人材の強化、財政支援、制度の改善(18歳以降の相談先の確保)について、ご尽力をいただきたいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困対策計画をまとめているところです。 ・民間団体のご協力を得ながら、全国的な里親委託、児童養護施設や一時保護所の環境改善に向けて、協議会を設立しようと議論しているところであり、国への働きかけも含め、積極的に取り組んでいきたいと思っています。